



## 2020年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年7月31日

上場会社名 株式会社サンリオ 上場取引所 東  
 コード番号 8136 URL <http://www.sanrio.co.jp/corporate/ir/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 辻 信太郎  
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 江森 進 (TEL) 03-3779-8058  
 四半期報告書提出予定日 2019年8月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2020年3月期第1四半期の連結業績(2019年4月1日~2019年6月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	13,379	△3.8	694	△48.1	944	△44.3	△291	—
2019年3月期第1四半期	13,907	3.5	1,336	4.5	1,695	28.4	1,066	5.1

(注) 包括利益 2020年3月期第1四半期 △229百万円(—%) 2019年3月期第1四半期 130百万円(△84.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第1四半期	△3.44	—
2019年3月期第1四半期	12.57	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第1四半期	90,884	50,894	55.7
2019年3月期	95,185	52,396	54.7

(参考) 自己資本 2020年3月期第1四半期 50,598百万円 2019年3月期 52,109百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	15.00	—	15.00	30.00
2020年3月期	—	—	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	15.00	—	20.00	35.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日~2020年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	27,800	△1.7	1,700	△21.3	2,200	△19.4	600	△60.4	7.07
通期	60,000	1.5	6,100	27.4	7,100	21.6	4,100	5.7	48.32

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付書類P.10「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期1Q	89,065,301株	2019年3月期	89,065,301株
② 期末自己株式数	2020年3月期1Q	4,208,583株	2019年3月期	4,208,583株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期1Q	84,856,718株	2019年3月期1Q	84,846,828株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.5「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(会計方針の変更)	10
(セグメント情報等)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間において、国内では、東京都多摩市、及び大分県の両テーマパークが好調でした。国内物販事業も、サンリオキャラクター大賞や、ヒット商品による集客効果などにより、顧客年齢層が広がり、増収につながりました。一方、海外においては、中国では新規ライセンスの獲得や、イベントやキャンペーンによる増収はありましたが、上位ライセンスの落ち込みをカバーするには至りませんでした。また、米国では、著名スポーツブランドとのコラボレーションが好調で、ブラジルではイースターのプロモーションなどが売上に貢献しましたが、欧米での厳しい状況は続いており、引き続き回復施策に取り組んでおります。

これらの結果として、売上高は133億円（前年同期比3.8%減）、営業利益は6億円（同48.1%減）、営業外収益として受取利息、投資事業組合運用益等を計上したことにより経常利益は9億円（同44.3%減）でした。特別損失に欧州委員会からの欧州競争法に関する課徴金を競争法関連損失として7億円、投資有価証券評価損3億円等を計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純損失は2億円（前年同期は10億円の利益）となりました。

なお、すべての海外連結子会社の決算期は1月～12月であり、当第1四半期連結累計期間の対象期間は、2019年1月～3月であります。

〔報告セグメント〕

(単位：億円)

		売上高				セグメント利益（営業利益）			
		前第1 四半期	当第1 四半期	増減	増減率	前第1 四半期	当第1 四半期	増減	増減率
日本	物販その他	79	82	2	3.5%	11	7	△3	△30.1%
	ロイヤリティ	22	21	△0	△4.2%				
	計	102	104	1	1.8%				
欧州	物販その他	0	0	△0	△43.2%	0	△1	△1	—
	ロイヤリティ	6	3	△2	△34.0%				
	計	6	4	△2	△34.0%				
北米	物販その他	2	1	△0	△25.6%	△1	△2	△0	—
	ロイヤリティ	4	3	△0	△13.8%				
	計	6	5	△1	△17.9%				
南米	物販その他	0	0	0	10.7%	0	0	0	47.0%
	ロイヤリティ	1	2	0	13.3%				
	計	1	2	0	13.3%				
アジア	物販その他	2	1	△0	△29.9%	8	6	△1	△21.0%
	ロイヤリティ	19	15	△3	△17.0%				
	計	21	17	△4	△18.6%				
調整額		—	—	—	—	△4	△4	△0	—
連結	物販その他	84	86	1	1.6%	13	6	△6	△48.1%
	ロイヤリティ	54	47	△6	△12.3%				
	計	139	133	△5	△3.8%				

(注) 海外地域の子会社は、ロイヤリティ収入に対して相応の額を売上原価として著作権所有者である日本の親会社に支払っており、それを親会社は売上高として計上しておりますが、連結消去されるため上表の日本の売上高にはその相当額は含まれておりません。セグメント利益（営業利益）には反映されております。

なお、ここに示す売上高は、外部顧客に対する売上高であり、前述のロイヤリティに限らず報告セグメント間売上高は内部取引高として消去しております。

## ① 日本：売上高104億円（前年同期比1.8%増）、営業利益7億円（同30.1%減）

物販事業は、サンリオキャラクター大賞効果による各キャラクターの人気度アップが見られ、キャラクターワイド展開の前髪クリップやハンディファンシリーズの発売で、特に中高生、大学生、OLの客層が大きく伸長し、既存店売上(直営店及び百貨店の当社直営ショップベース)が前年同期比107.8%と前年を上回りました。4月には、浅草オレンジ通りにSanrio Gift Gate 浅草店がオープンし、国内外のお客様に非常に注目されております。またキャラクターカフェワゴンの出店増(ワゴン車は2台から9台、稼働日数は32日から171日)で、フードレストラン部門も売上を伸長させることができました。卸部門では、取引先のドン・キホーテの取引店舗数が24店舗増加し売上高が前年同期比156.0%、またEC取引先のAmazonでは同120.5%と大きく伸長しました。第2四半期は、今年のサンリオキャラクター大賞第1位で、誕生から45周年を迎えた『ハローキティ』のイベントや販促策、またインバウンド対策としてのキャンペーンを実施し、話題作りや売上増につなげてまいります。

ライセンス事業の商品化権ライセンスでは、アパレル全般の天候不順による不振の影響はありましたが、サンリオキャラクターのワイド展開とアニメ系コンテンツとのコラボレーション企画、新規の大手食品メーカーとの展開が好調でした。対企業企画では、株式会社ディーエイチシーのサプリメントの商品化に加え、JRA(日本中央競馬会)の全国にある場外馬券売場の利用促進のための新規大型キャンペーンやNTTの電報などが堅調でした。また「雲の上のアニバーサリー(東京スカイツリー)」や「ハローキティコレクション展(西武池袋本店)」などのイベントロイヤリティも貢献しました。

テーマパーク事業は、東京都多摩市のサンリオピューロランドで、入園者数が329千人(前年同期比8.4%増)と前年同期比25千人増加しました。若い女性向けにSNSを使い情報発信を実施したことによる効果もあり増員につながりました。入園者増により、チケット売上、お土産などの商品売上、レストラン売上が前年同期に比べ2桁の伸び率となりました。営業損益は、イベント開催に伴う人件費、館のレストランの改修による償却費等の費用の増加を補い増益となりました。大分県のハーモニーランドでは、入園者数が107千人(前年同期比16.5%増)と前年同期比15千人増加しました。主にゴールデンウィーク10連休により、県外からの入園者が堅調に推移したことや大型の会員企画の新規獲得から集客を伸ばしました。ゴールデンウィークやイベントの集客に対し『ハローキティ』45周年グッズを中心に土産物の販売が好調に推移しました。夏季に向けては、例年盛況な「水遊びプールエリア」の集客強化や涼感を伴ったショーの演出に注力するとともに、7月にはハーモニーランドでも『ウィッシュミーメル』がデビューし、イベントの展開を図ります。また、新規のドラッグストアや大手流通ストア、ファーストフード店とタイアップした夏季限定割引券の流通等を図り、入園者数の増加に取り組みます。

## ② 欧州：売上高4億円（前年同期比34.0%減）、営業損失1億円（同1億円損失増）

欧州では、主要国での苦戦が継続しました。また、前年同期にミニマムギャランティの未達分の売上計上があったことによる影響がありました。『ミスターメン リトルミス』につきましても、主力の出版、アパレルが苦戦しました。中国においては、新規代理店を前年末に採用し第2四半期以降に新規獲得売上を計画しております。

## ③ 北米：売上高5億円（前年同期比17.9%減）、営業損失2億円（同29百万円損失増）

主力のアパレルのカテゴリーが苦戦しましたが、「Converse」や「Herschel」とのブランドコラボレーションや、化粧品チェーン店でのCrème shop(コスメ)の展開などが売上に貢献しました。前年のロイヤリティ収入のミニマムギャランティ未達分の計上が大きかったことが減収に影響しました。

## ④ 南米：売上高2億円（前年同期比13.3%増）、営業利益39百万円（同47.0%増）

南米地域は、ブラジルでは、サンダルのコラボレーションや、イースター関連の食品のプロモーションが好調でした。メキシコでは、アパレルや家電での既存の取引が依然苦戦しておりますが、ヘルス&ビューティのカテゴリーにおいては、トップライセンサーとの取り組みが進む等好調でした。

## ⑤ アジア：売上高17億円（前年同期比18.6%減）、営業利益6億円（同21.0%減）

香港では、事前予測どおり、香港・マカオ市場、タイ市場での企業キャンペーン案件の減少に伴い減

収となりましたが、下期での案件の獲得を目指しております。また、インドネシアにつきましては、まだ市場規模が小さいものの計画を上回り増収となりました。

台湾では、企業特販やバッグカテゴリー、インテリアが好調でしたが、前期にテーマパーク関連での一時的な売上の計上があったこともあり、減収でした。

中国では、宝飾品市場の成長の伸び悩みによるアクセサリ関連の落ち込みや、その他トップライセンスも苦戦しましたが、Anta Kidsでの取扱いがスタートした『けろけろけろっぴ』は、『ハローキティ』に次ぐキャラクターに躍進し、また、『ぐでたま』も企業プロモーションへの採用に加え、イベント、商品化により伸長しました。

参考：海外子会社 売上高・営業利益（現地通貨ベース：連結消去前個別財務諸表数値）

	売上高			営業利益
	ロイヤリティ	物販	計	
ドイツ 千EUR	2,587	15	2,602	△545
(前年同期比増減%)	△29.7	△12.4	△29.6	—
英国 千GBP	638	—	638	△241
(前年同期比増減%)	△33.6	—	△34.1	—
北米 千USD	3,491	1,635	5,126	△1,934
(前年同期比増減%)	△15.0	△26.0	△18.9	—
ブラジル 千BRL	6,851	115	6,967	1,361
(前年同期比増減%)	29.2	6.0	28.7	62.3
チリ 千CLP	—	5,226	5,226	109
(前年同期比増減%)	—	—	—	—
香港 千HKD	25,448	9,907	35,356	11,286
(前年同期比増減%)	△27.8	△14.6	△24.5	△22.8
台湾 千NTD	93,429	8,560	101,989	34,913
(前年同期比増減%)	△3.4	△75.1	△22.2	△12.8
韓国 千KRW	1,936,089	153,202	2,089,292	366,302
(前年同期比増減%)	△14.4	78.1	△11.0	△41.0
中国 千CNY	42,699	20,658	63,357	19,586
(前年同期比増減%)	△11.1	23.6	△2.1	△14.6

## (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は908億円で前連結会計年度末比43億円減少しました。資産の部の主な減少項目は現金及び預金26億円、受取手形及び売掛金14億円です。

負債の部は399億円で前連結会計年度末比27億円減少しました。主な減少項目は有利子負債（1年内償還予定社債を含む）27億円です。純資産の部につきましては、508億円で前連結会計年度末比で15億円減少しました。これは主に、配当金の支払等により利益剰余金15億円が減少したことによるものです。自己資本比率は55.7%で前連結会計年度末比1.0ポイント上昇しました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、概ね計画どおりの成績でした。今後も中国における経済成長見通しや、韓国における政治、経済状況の懸念などを抱えてはいるものの、引き続き通期の業績目標を達成すべく施策を推進しております。

第2四半期（累計）及び通期の連結業績予想につきましては、2019年5月14日に公表しました連結業績予想から変更しております。本日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。なお、当期配当予想につきましては、期初発表どおり、第2四半期に15円、期末20円（記念配当5円を含む）の年間35円の計画を継続します。

## (参考) 海外地域別損益～第1四半期の3期推移

(単位：百万円)

地域		外部顧客に対する売上高					営業利益				
		2017/6	2018/6	増減率 (%)	2019/6	増減率 (%)	2017/6	2018/6	増減率 (%)	2019/6	増減率 (%)
北米	米国	690	686	△0.5	563	△17.9	△153	△184	—	△213	—
南米	ブラジル・チリ	264	181	△31.4	205	13.3	46	27	△41.9	39	47.0
アジア	香港	689	634	△7.9	495	△21.8	238	209	△12.4	160	△23.4
	台湾	349	461	32.1	336	△27.2	127	148	16.5	125	△15.6
	韓国	248	239	△3.9	204	△14.3	65	63	△2.8	36	△43.0
	中国	737	857	16.2	748	△12.7	346	392	13.1	320	△18.3
	小計	2,025	2,192	8.3	1,785	△18.6	778	813	4.5	642	△21.0
欧州	ドイツ	496	490	△1.2	324	△33.8	11	47	323.6	△68	—
	英国	123	116	△5.7	76	△34.8	12	△29	—	△36	—
	小計	620	607	△2.1	400	△34.0	23	17	△25.4	△104	—
合計		3,600	3,668	1.9	2,955	△19.4	694	674	△3.0	363	△46.0

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	43,814	41,190
受取手形及び売掛金	6,866	5,391
商品及び製品	4,276	4,132
仕掛品	32	114
原材料及び貯蔵品	115	163
未収入金	614	282
その他	797	795
貸倒引当金	△130	△101
流動資産合計	56,387	51,969
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,405	5,611
土地	8,473	8,470
その他(純額)	2,033	2,661
有形固定資産合計	15,912	16,742
無形固定資産	3,397	3,347
投資その他の資産		
投資有価証券	11,524	10,798
繰延税金資産	2,683	2,816
その他	6,321	6,228
貸倒引当金	△1,071	△1,043
投資その他の資産合計	19,458	18,800
固定資産合計	38,768	38,890
繰延資産	29	25
資産合計	95,185	90,884
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,433	3,770
短期借入金	6,869	6,613
未払法人税等	678	393
賞与引当金	495	773
返品調整引当金	3	12
株主優待引当金	29	36
ポイント引当金	87	85
事業構造改善引当金	247	—
その他	10,046	9,464
流動負債合計	22,891	21,148
固定負債		
社債	2,384	2,130
長期借入金	9,027	7,876
退職給付に係る負債	5,157	4,767
その他	3,327	4,067
固定負債合計	19,896	18,841
負債合計	42,788	39,990



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	3,409	3,409
利益剰余金	55,114	53,550
自己株式	△11,762	△11,762
株主資本合計	56,762	55,197
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△231	△386
繰延ヘッジ損益	△0	△1
為替換算調整勘定	△1,786	△1,756
退職給付に係る調整累計額	△2,634	△2,454
その他の包括利益累計額合計	△4,652	△4,598
非支配株主持分	287	295
純資産合計	52,396	50,894
負債純資産合計	95,185	90,884

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
売上高	13,907	13,379
売上原価	4,831	4,746
売上総利益	9,075	8,632
返品調整引当金繰入額	—	9
返品調整引当金戻入額	29	—
差引売上総利益	9,104	8,623
販売費及び一般管理費	7,768	7,929
営業利益	1,336	694
営業外収益		
受取利息	106	138
受取配当金	22	27
為替差益	44	—
投資事業組合運用益	221	131
その他	36	81
営業外収益合計	431	378
営業外費用		
支払利息	26	25
為替差損	—	60
支払手数料	38	36
その他	7	5
営業外費用合計	72	127
経常利益	1,695	944
特別利益		
固定資産売却益	—	58
投資有価証券売却益	335	80
特別利益合計	335	138
特別損失		
固定資産処分損	1	1
投資有価証券評価損	508	355
減損損失	9	1
競争法関連損失	—	772
その他	2	26
特別損失合計	521	1,156
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	1,509	△73
法人税、住民税及び事業税	601	343
法人税等調整額	△168	△134
法人税等合計	433	208
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,075	△282
非支配株主に帰属する四半期純利益	9	8
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	1,066	△291

## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,075	△282
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	551	△154
繰延ヘッジ損益	3	△1
為替換算調整勘定	△1,672	29
退職給付に係る調整額	171	179
その他の包括利益合計	△945	53
四半期包括利益	130	△229
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	135	△237
非支配株主に係る四半期包括利益	△5	8

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

国際財務報告基準を適用している子会社は、当第1四半期連結会計期間より、国際財務報告基準第16号「リース」(以下「IFRS第16号」という。)を適用しております。これにより、リースの借手は、原則としてすべてのリースを貸借対照表に資産及び負債として計上することとしました。IFRS第16号の適用については、経過措置として認められている、本基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しております。

この結果、当第1四半期連結会計期間末の「有形固定資産」が439百万円増加し、流動負債の「その他」が68百万円及び固定負債の「その他」が372百万円増加しております。当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(セグメント情報等)

## I 前第1四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	欧州	北米	南米	アジア	合計		
売上高								
外部顧客への売上高	10,238	607	686	181	2,192	13,907	—	13,907
(うちロイヤリティ売上高)	(2,277)	(604)	(447)	(178)	(1,924)	(5,432)	(—)	(5,432)
セグメント間の 内部売上高又は振替高	1,391	6	1	0	299	1,698	△1,698	—
(うちロイヤリティ売上高)	(1,324)	(6)	(—)	(—)	(0)	(1,330)	(△1,330)	(—)
計	11,629	613	687	181	2,492	15,605	△1,698	13,907
セグメント利益又は損失(△)	1,103	17	△184	27	813	1,777	△441	1,336

- (注) 1. セグメント利益又は損失の調整額 △441百万円は、セグメント間取引消去及び配賦不能営業費用であり、配賦不能営業費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため記載を省略しております。

## II 当第1四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	欧州	北米	南米	アジア	合計		
売上高								
外部顧客への売上高	10,423	400	563	205	1,785	13,379	—	13,379
(うちロイヤリティ売上高)	(2,181)	(399)	(385)	(201)	(1,597)	(4,765)	(—)	(4,765)
セグメント間の 内部売上高又は振替高	1,201	4	2	△0	318	1,525	△1,525	—
(うちロイヤリティ売上高)	(1,144)	(4)	(—)	(△0)	(0)	(1,147)	(△1,147)	(—)
計	11,625	405	566	205	2,103	14,905	△1,525	13,379
セグメント利益又は損失(△)	771	△104	△213	39	642	1,135	△441	694

- (注) 1. セグメント利益又は損失の調整額 △441百万円は、セグメント間取引消去及び配賦不能営業費用であり、配賦不能営業費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため記載を省略しております。